



NPO法人ジャパンデンタルミッション

海外活動報告書

場所 ヴァヌアツ共和国 ペンテコスト島

期間 2018年7月11日～7月19日

参加メンバー

(左から) 川本 麻央(D) 向井 まち子(H) 神農 明(V) リリー (H) 谷口 真結子(D)
ラッセル(D) 関根 淳(D) 沢田 宗久(D) 小西あゆみ(H) ローリー (政府関係者)
マイネ (D) 伊藤 玲 (D) 鈴木 麻代 (JICA 衛生士) 平野 文興 (T)



活動内容

7月11日（水曜日）

成田にて、沢田、関根、平野、神農が合流し、ヌメアへ。

折りたたみ式のデンタルチェア、技工機材など滞りなく到着した。



7月12日（木曜日）

先発メンバーはポートヴィラへ。

入国時に荷物検査で機材を開けられるも、MOH からの持ち込み許可が空港側に届いており、無事通過した。

その後ホテルに荷物を置きすぐに、DT 平野の技工士派遣プロジェクトのための、MOH 管轄の倉庫やセントラルホスピタルなどの候補地を視察した。

この日羽田より、伊藤、川本、小西、向井が合流し、機材やドネーションの品、食材などと共に、ポートヴィラに向けて出発した。



7月13日（金曜日）

先発メンバーは、JICA 青年海外協力隊の DH 鈴木の尽力により、分刻みで動く政府の要

人を一同に介し、会議を行うことができた。



後発メンバーと、ヌメアより谷口も合流し、計9名で夕食をとった。

7月14日（土曜日）

DH 鈴木、ポートビラからの歯科医師ラッセル、マイネ、歯科衛生士リリーも合流し、飛行機の変更などはあったものの、朝8時過ぎにペンテコスト島に到着。ゲストハウスに荷物を置き、活動場所となる教会で診療準備を行った。中には、目隠しのためのしきりなどを設置してくれたり、協力してくれる住民もいた。夕方、コミュニティーの人々からの歓迎セレモニーが開かれ、生花の首飾りなどを贈呈された。



7月15日（日曜日）

ペンテコスト島での活動は今年が初めてであり、始めは全く患者が来なかった。

そこで、Dr 沢田、関根、ラッセルの3名が、パンギコミュニティの家を歩いて一軒一軒訪問し、JDMの活動内容を説明してまわった。

すると、治療を受けるにはお金がかかるという誤った情報が流れていることがわかり、我々はボランティアである事を周知すると、治療を希望する住民が徐々に増えてきた。そのため午後には治療やクリーニングを行うことができた。

義歯などの希望もあり、作製のための型取りも行った。

この日は悪天候のため、予定していたランワスコミュニティへの訪問は中止とした。



7月16日（月曜日）

午前9時より、全員でパンギスクールへ行き、歯科検診の準備を行った。

その後 Dr 伊藤、川本、DH 小西、DT 平野は教会へ戻り、診療にあたった。

教会の入り口には前日にはなかった水道が、朝には設置されており、住民の友好的な感情がうかがえた。

その他メンバーは、パンギスクールでの歯科検診、国際文化交流、歯科教育を行った。

国際文化交流では日本の八尾市竹濑小学校の生徒が折った、折り紙やぶんぶん独楽などを提供し、また、ヴァヌアツの子供たちが折った、日本ではあまり見ない花や風車などの折り紙を持って帰った。

Dr 関根、Vo 神農から日本式の折り紙のレクチャーがあり、子供たちは紙飛行機を飛ばすなど大いに盛り上がる事ができた。



歯科教育では、MOHの歯科衛生士リリーが歯磨きと虫歯、歯周病の関係の話や、歯の磨き方などのレクチャーがあり、JDMから寄付した歯ブラシを使い実地指導を行った。

歯科検診で要治療の子供達をピックアップし、Dr 谷口、DH 向井が教会へ引き連れ、保護者の治療許可を得た子供たちから順に、治療を行っていった。

入れ歯作製希望者が後をたたず、日数が限られているため、皆なんとか工夫をし、その場で直接作るなど、希望を少しでもかなえる努力をした。



Dr 沢田、関根、JICA 鈴木、Vo 神農はその後保健センターを訪問。ここでは、助産施設がメインとなり、歯科診療が可能なスペースは存在しなかった。

保健センター周囲の土地管理者より、JDM が今後歯科診療所を建設する事があれば、使用できる土地を提供するという許可を受けた。

診療所建設の可否、予算、方法などを話し合うにあたり、Vo 神農は、専門分野であったため、現地担当者からも意見を絶えず求められ、引っ張りだこであった。



7月17日（火曜日）

Dr 沢田たちは、スクールを訪問。歯ブラシの寄付、国際文化交流、歯科教育を行った。

Dr 関根より、齲蝕、歯周病について、MOH ラッセルよりブラッシング指導、最近ヴァヌアツで問題になっている子供の喫煙について、熱心な教育があった。

国際文化交流では折り紙のレクチャーを行った。飛行機、鶴の折り紙が好評であった。

ヴァヌアツの折り紙も子供たちが披露してくれた。モチーフは花や船など身近にあるものが多く、動きがあったりと工夫されていた。



午後は全員で診療にあたり、夕方には片付けを開始した。

7月18日（水曜日）

朝食後、住民より、感謝の気持ちを現したいとのことで、教会でセレモニーが行われた。ポートヴィラ行きの飛行機の時間の大幅な変更があり、出発までに時間ができたので、みなで空港へ向かう途中、観光名所である滝を見にいった。その後さらなる飛行機の遅延はあったが、無事ポートヴィラに帰ることができた。



7月19日（木曜日）

Dr 沢田らは MOH ローリー氏と最終ミーティングを行った。

ローリー氏は今年で定年退職となるため、JDM と公式にやり取りをするのは最後となった。

長年の感謝と慰労の意をこめて、JDM のみなでメッセージを書いた扇子型の色紙を贈った。

その後、Dr 沢田、関根、谷口、DT 平野、Vo 神農はヌメア経由、Dr 伊藤、川本、DH 小西、向井はシドニー経由で、帰国した。

総括

時に大雨が降ったものの天候には比較的恵まれ、最終日までスタッフ全員健康に、不調にならず元気に活動できました。

今回は、ペンテコスト島のパンギー村を拠点に初の活動となりました。空港から40分ほどの場所で、300人ほどの集落であり、教会のスペースをお借りして、診療させて頂きました。初日は、私たちの活動が有料であるという噂が広まり、患者数が少なかったのですが、無料であることが認知されたことと、義歯の製作まで行なっていることが広まり、多くの患者さんが来院されました。

学校検診はパンギー小学校で130人の子供たちの検診を行い、治療の必要な子供には親の承諾を得た上で、治療を行うことができました。学校検診は今回1校のみ。次回は、学校検診も多く可能になるよう活動できるメンバーが増えることを期待したいとメンバー全員が願っています。

初めての場所での歯科活動であったため、不慣れな点も多く、水の確保や電源供給、作業上の準備に苦勞した部分はあったが、村の人々が協力してくださり、円滑にミッションを実行することができました。

そして、毎晩活動後に反省会と今後のJDMの発展のために、活動メンバーからの現場の声として多くディスカッションしました。今後、充実した活動を継続していくには、なかなか難しいこともあるだろうが、現場で活動するメンバーが安心して活動できる環境整備や新規メンバーの募集方法の検討や多くの興味ある方々へのアピールなどが必要であり、当会ホームページのリニューアルなどを含めて、新しい行動もしなければならないと、より良い活動ができるように代表を含め、メンバー間で同じ釜の飯を食べながら熱く語り合いました。メンバーそれぞれ、このJDMの向上と発展を期待してのことであり、代表の作り上げた思いや活動に賛同しているからこそ、熱く語り合ったと思います。

今回の活動でいくつかの課題が見つかり、来年度の活動に向けてより充実した活動と村人の皆さんに喜ばれるように努めることを誓い、無事にメンバー全員が健康で安全に帰国の途に着きました。

伊藤 玲

治療結果

	15日	16日	17日	合計
抜歯	16本	35本	28本	79本
CR	8本	16本	31本	55本
ブラッシング	3人	0人	0人	3人
チェック	1人	1人	4人	6人
PDimp	2床	7床	0床	9床
PDset	1床	2床	8床	11床
スケーリング	7人	11人	10人	28人

Hys 処	0本	3本	0本	3本
開窓術	0人	1人	0人	1人
人数	22人	46人	51人	119人

活動リーダー報告

時に大雨が降ったものの天候には比較的恵まれ、最終日までスタッフ全員健康に、不調にならず元気に活動できました。

今回は、ペンテコスト島のパンギー村を拠点に初の活動となりました。空港から40分ほどの場所で、300人ほどの集落であり、教会のスペースをお借りして、診療させて頂きました。初日は、私たちの活動が有料であるという噂が広まり、患者数が少なかったのですが、無料であることが認知されたことと、義歯の製作まで行なっていることが広まり、多くの患者さんが来院されました。

学校検診はパンギー小学校で130人の子供たちの検診を行い、治療の必要な子供には親の承諾を得た上で、治療を行うことができました。学校検診は今回1校のみ。次回は、学校検診も多く可能になるよう活動できるメンバーが増えることを期待したいとメンバー全員が願っています。

初めての場所での歯科活動であったため、不慣れな点も多く、水の確保や電源供給、作業上の準備に苦労した部分はあったが、村の人々が協力してくださり、円滑にミッションを実行することができました。

そして、毎晩活動後に反省会と今後のJDMの発展のために、活動メンバーからの現場の声として多くディスカッションしました。今後、充実した活動を継続していくには、なかなか難しいこともあるだろうが、現場で活動するメンバーが安心して活動できる環境整備や新規メンバーの募集方法の検討や多くの興味ある方々へのアピールなどが必要であり、当会ホームページのリニューアルなどを含めて、新しい行動もしなければならぬと、より良い活動ができるように代表を含め、メンバー間で同じ釜の飯を食べながら熱く語り合いました。メンバーそれぞれ、このJDMの向上と発展を期待してのことであり、代表の作り上げた思いや活動に賛同しているからこそ、熱く語り合ったと思います。

今回の活動でいくつかの課題が見つかり、来年度の活動に向けてより充実した活動と村人の皆さんに喜ばれるように努めることを誓い、無事にメンバー全員が健康で安全に帰国の途に着きました。

伊藤 玲